



米FRBは2018年内の利上げペース加速を示唆

- FRBは市場予想通り、0.25%の利上げを決定。底堅い米国の経済環境を背景に、年内の利上げペース加速を示唆。
- FOMC参加者の2018年末の政策金利見通し(中央値)は、年4回の利上げを見込む2.375%へ引き上げられる。
- FOMC参加者は2019年に3回、2020年に1回の利上げを見込む。2020年に向けて利上げ局面は徐々に終盤へ。
- FOMC参加者によれば中立的な金利水準は2.875%とみられており、2019年には引き締めの金融環境が視野に。

FRBは市場予想通り、0.25%の利上げを決定

米連邦準備制度理事会(FRB)は6月12-13日の連邦公開市場委員会(FOMC)において、大方の市場予想通り、フェデラル・ファンド(FF)金利の誘導目標レンジを0.25%引き上げ1.75-2.00%とする決定を下しました(図1)。

FRBは底堅い米国の経済環境を背景に、2018年内の利上げペースを加速させる可能性を示唆しました。今回のFOMCで公表されたFOMC参加者の米国経済見通しでは、2018年の実質GDP、雇用環境、インフレに関する予想値が軒並み上方修正されました(図2)。

FOMC参加者の大半は今年4回の利上げを予想

FOMC参加者の2018年末の政策金利見通し(15名の予想中央値)は、3月時点の年3回の利上げを見込む2.125%から、年4回の利上げ(年内は残り2回の利上げ)を見込む2.375%へ引き上げられました(図1)。

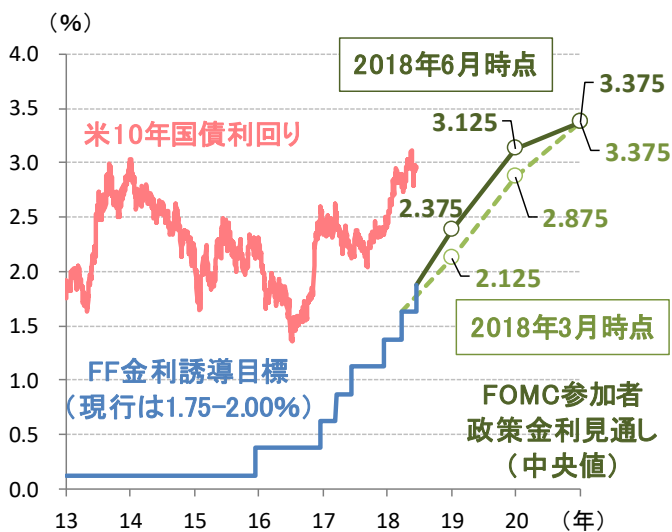
全15名のFOMC参加者のうち、年4回以上の利上げを見込む参加者が8名と大勢を占めました。その他は、年3回の利上げ(年内は残り1回の利上げ)を見込む参加者が5名、年2回の利上げ(年内は金利据え置き)を見込む参加者が2名となっています。

利上げ局面は2020年に向けて徐々に終盤へ

FOMC参加者の来年以降の政策金利見通し(中央値)では、2019年に3回、2020年に1回の利上げが想定されており、2020年に向けて利上げ局面が徐々に終盤に向かう可能性が示されています。

また、FOMC参加者によれば、景気を冷やさず過熱させもしない中立金利(=長期的な政策金利)は2.875%(中央値)とみられており、2019年には政策金利が中立金利を上回る引き締めの金融環境が視野に入りそうです。

図1:FOMC参加者の政策金利見通し



(出所)ブルームバーグ、米連邦準備制度理事会(FRB)
(期間)2013年1月1日~2018年6月13日

図2:FOMC参加者の米国経済見通し(中央値)

(単位: %)	予想時点	2018年	2019年	2020年	長期
実質GDP成長率 (前年比)	今回	2.8	2.4	2.0	1.8
	2018年3月時点	2.7	2.4	2.0	1.8
失業率	今回	3.6	3.5	3.5	4.5
	2018年3月時点	3.8	3.6	3.6	4.5
インフレ率 (前年比)	今回	2.1	2.1	2.1	2.0
	2018年3月時点	1.9	2.0	2.1	2.0
コア・インフレ率 (前年比)	今回	2.0	2.1	2.1	
	2018年3月時点	1.9	2.1	2.1	

(出所)FRB (注)コア・インフレ率は食品・エネルギーを除く個人消費支出(PCE)価格指数。GDPとインフレ率は各年第4四半期の前年比、失業率は第4四半期の平均。

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。●当資料に記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。